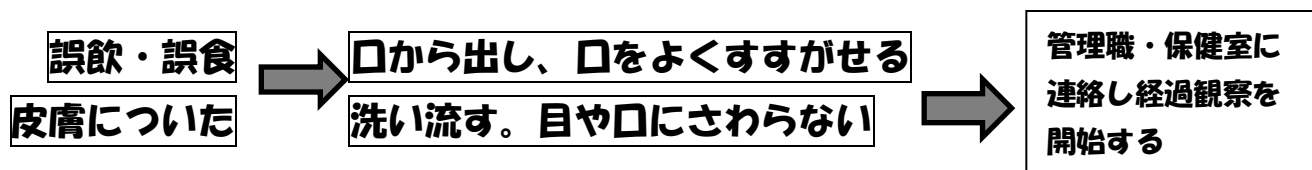


校内での食物アレルギー対応について

<対応の原則>



観察のポイント	様子	対応のステップ
皮膚・粘膜症状	部分的	1
	広範囲	2
呼吸器症状	喉・口の中の違和感	1
	咳	2
	息苦しさ	3 ※
消化器症状	腹痛・嘔吐1回	2
	くりかえす嘔吐	3 ※
ショック症状	だるさ	3 ※
	顔面蒼白・冷や汗	3 ※
	意識障害	3 ※

ステップ1 内服薬服用・保護者に報告
ステップ2 内服薬服用・保護者に連絡し対応を検討
ステップ3 エピペン注射 直ちに病院へ ※は救急車要請

<給食での具体的な対応>

給食開始前（主に2月下旬から3月中）

- 給食で除去食等対応の必要な児童については、「食物アレルギー対応依頼書」・主治医による「学校生活管理指導表」を提出してもらい養護・栄養士が保護者と面談し詳細を確認。対応を検討する。
- 保護者には、月ごとに家庭で給食の献立表をもとに除去食のある日の確認をしてもらい児童に注意を促す等してもらおう。
- 食物アレルギーによる除去食等の対応の必要な児童の確認・周知を給食の開始前（4月始）に行う。

給食が始まってから（4/10～）

- 除去食児童氏名・除去食の確認は栄養士・調理士で献立の打ち合わせ時、当日朝の打ち合わせ、給食を教室へ出す時に行う。
- 調理後の除去食は、他の児童が使用する食器と同じ食器に盛り付けラップをした上にフードカバーをかける。またトレイには除去食材・氏名を明記したカードをつけ、他の給食との混在を防止する。
※除去食の出る日は、同じカードを朝のうちに職員室の担任の机上にも置く。
※除去食のトレイは、色が違います・

全教職員での確認事項

<事前に>

- ・エピペンや薬を持参している児童については、保管場所を必ず確認し、すぐ取り出せるようにしておく。
(校長室 入って右手の書棚の一番上の段に保管。 要確認)

<日常の給食指導時>

- ・除去食の出る日は、朝のうちに職員室の机の上に児童の氏名・除去食材を明記したカードを黄色のファイルに入れてをおくので確認をする。
- ・配膳の際は誤配のないよう、必ず担任が確認をし子ども任せにしない。
- ・配膳は、いつも除去食対応の児童のものを一番最初にする。
- ・フードカバーは「いただきます」をするまで、はずさない。トレイにあるカードは担任がもらい、カードの内容と配膳されたものが合っているか確認し、サインをする。
- ・盛り付けられている除去食は、教室で増やしたり減らしたりしない。(必要に応じ給食室で盛り付けた時にある程度個別対応をする。)
- ・除去食のある日は、除去食だけでなく、**他のものもおかわりは禁止**。盛り付け量についてはある程度個別に対応してよい。(例:たくさん食べる児童なら少し多めに・・・ 食の細い児童ならそれなりに・・・)
- ・除去食対応の児童が欠席の場合は、20分休みまでに栄養士に知らせる。

<補教・行事等で担任ではない職員の関わり>

- ・補教で他の教員がクラスに入る場合は、担任から除去食対応の児童の有無についての連絡をし指導に入ってもらおう。
- ・交流給食の際の除去食対応の児童の給食は、給食室で、その児童が行く先の教室にセットしておくので担任は該当児童がどの教室に行くのか連絡を栄養士にいれる。
1年生歓迎給食(4/17月) ・なかよし班給食(5/11火) ・ 6年お別れ給食(3/9金)
・・・その児童の入る教室にセット
野外給食(10/17火 お弁当給食)・・・除去食対応のお弁当を教室でもらい、たてわり班へ移動する。

緊急時の対応 (複数の教職員で対応)

エピペン → 校長室 本棚一番上の段 (段ボールの箱に表示あり)
AED → 体育館入口 右手

1. **動かさない・一人にしない**

2. **人を呼び集める** (できれば3人以上)

記録

3. **児童の観察・
エピペン介助 (+AED)**

4. **救急車に同乗**

クラスの他の
児童の管理

3. **保護者に連絡**

4. **食べたものを確認**

〔 栄養士に連絡
献立表・食品を準備 〕

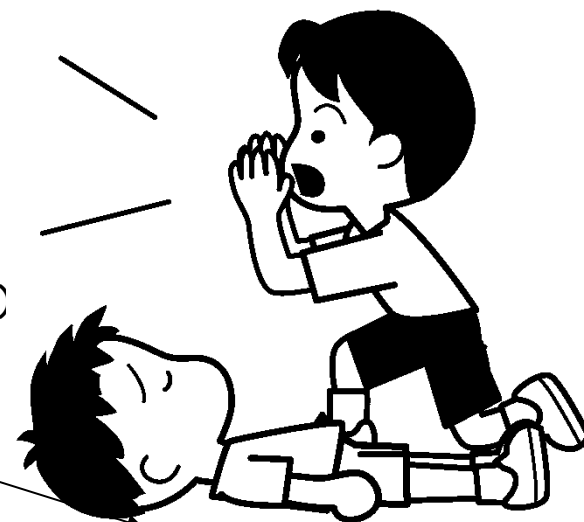
管理指導表 (保健室) の確認...

(保健室事務机 背面の灰色のキャビネット大きな扉の方または栄養士が所持しているもの)

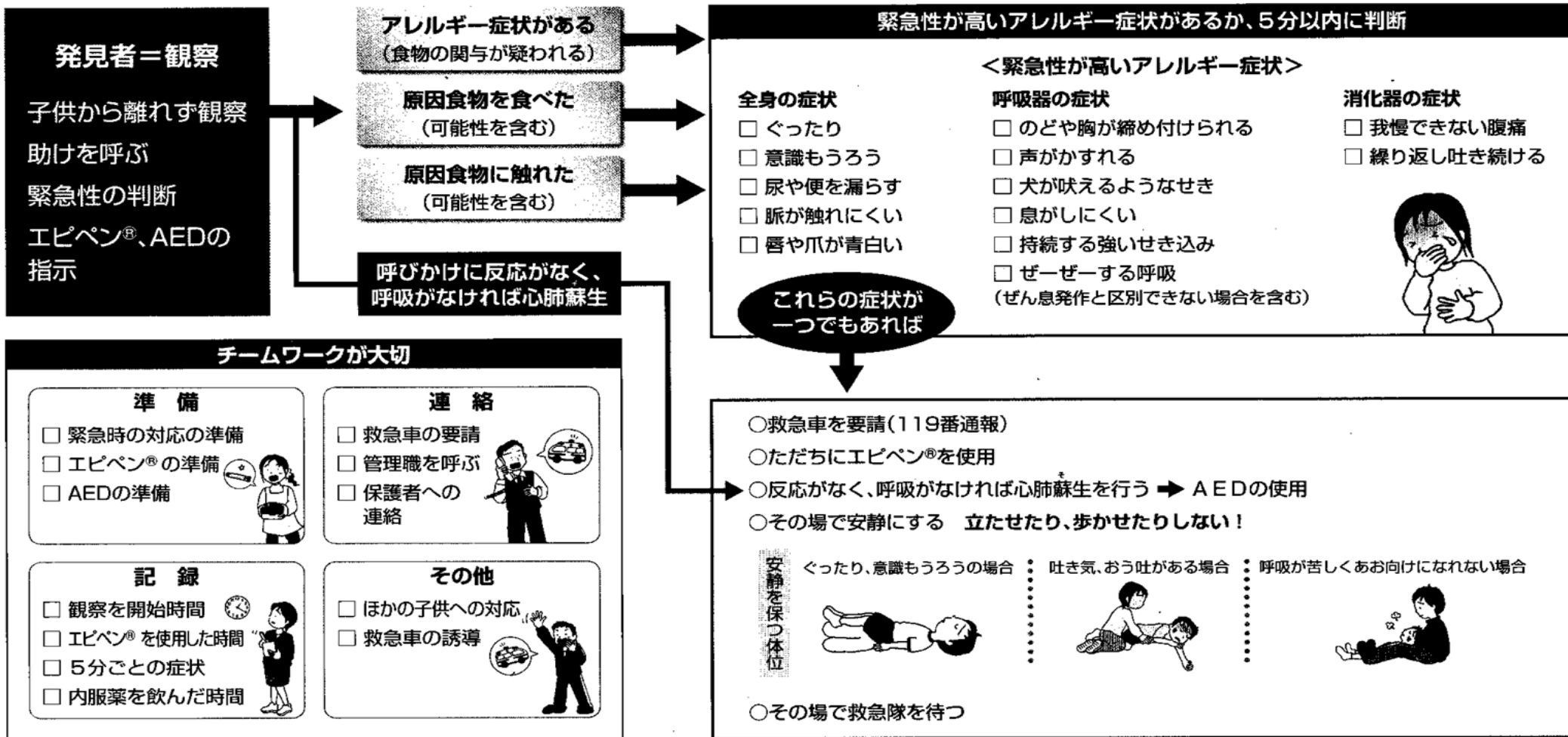
3. **管理職に連絡**

4. **救急車を呼ぶ**

救急車の
誘導



③ 緊急時の対応



エピペン®の使い方

- ① ケースから取り出す
- ② 利き手でグーで握る
- ③ 青い安全キャップを外す
- ④ 太ももの外側に注射「カチッ」と音がするまで押し当て、五つ数える
- ⑤ オレンジ色のニードルカバーがのびていることを確認する



本人が注射できない場合

衣類の上からも打つことができる
ポケットの中身を確認



*アドレナリン自己注射薬をエピペン®と表記

A

施設内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う



B

緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペン®を打つ！ただちに119番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

① ただちにエピペン®を使用する！

→ **C** エピペン®の使い方

② 救急車を要請する(119番通報)

→ **D** 救急要請のポイント

③ その場で安静にする(下記の体位を参照)

立たせたり、歩かせたりしない！

④ その場で救急隊を待つ

⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

◆ エピペン®を使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う → **E** 心肺蘇生とAEDの手順

内服薬を飲ませる

↓
保健室または、安静にできる場所へ移動する

↓
5分ごとに症状を観察し症状チェックシートに従い判断し、対応する緊急性の高いアレルギー症状の出現には特に注意する

F 症状チェックシート

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

F

症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆ の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1～2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1～2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状	<div style="background-color: red; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>上記の症状が 1つでもあてはまる場合</p> </div>	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合

①ただちにエピペン®を使用する
 ②救急車を要請する(119番通報)
 ③その場で安静を保つ
 (立たせたり、歩かせたりしない)
 ④その場で救急隊を待つ
 ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

**ただちに救急車で
医療機関へ搬送**

①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
 ②速やかに医療機関を受診する
 (救急車の要請も考慮)
 ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、 の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

**速やかに
医療機関を受診**

①内服薬を飲ませる
 ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

**安静にし、
注意深く経過観察**

